

レケリ去夜マデ所勞アラムモノ、イカテカ一夜ノ内ニナラルベキ、イツハレル事也ト被仰ケリ、白河院ハ此ヲ聞食テ、キクトモ、キカジトゾ、オホセラレケル、アマリノコトナリト、思召ケルニヤ、

〔平家物語六〕新院ほうぎよの事

上皇倉高略中内には、十かいをたもつて、じひをさきとし、ほかには、五常をみだらせ給はず、れいぎを正しうせさせおはします、まつ代のけんわうにておはしければ、世のおしみ奉る事、月日のひかりをうしなへるがごとし、略中

こうえうの事

あんげんの比ほひ、御かたがひの行かうの有しに、さらでだに、けい人あかつきをとなふこゑ、明王のねふりをおどろかす程にも成しかば、いつも御ねがめがちにて、つやく御えんもならざりけり、いはんやさゆる霜よの、はげしきには、延喜のせい代、國土の民共が、いかにさむかるらんとて、よるのおとゞにして、御衣をぬがせ給ひける事など、までも、思召出て、我帝徳のいたらぬ事をぞ、御なげき有ける、略下

〔續日本後紀九〕承和七年五月辛己、於是中納言藤原朝臣吉野奏言、昔宇治稚彦皇子者、我朝之賢明也、此皇子遺教自使散骨、後世効之、略下

〔日本書紀二十〕十二年七月丁酉朔詔曰、屬我先考天皇之世、新羅滅内官家之國、夫國排開廣庭天皇二十三年任那爲新

羅所滅故云新羅滅我内官家也先考天皇、謀復任那、不果而崩、不成其志、是以朕當奉助神謀、復興任那、今在百濟、火

葦北國造阿利斯登子、達率日羅賢而有勇、故朕欲與其人相計、乃遣紀國造押勝、與吉備海部直羽島、喚於百濟、

〔日本書紀二十二〕二十一年十二月庚午朔、皇太子遊行於片岡時、飢者臥道垂、仍問姓名而不言、皇太